

特集 良医研修「消化器内科セミナー」in 呉医療センター

令和6年度 良質な医師を育てる研修

～ センスとスキルを身につける！ 未来を拓く消化器内科セミナー ～

NHOでは、毎年、多彩な内容で“良質な医師を育てる研修”を開催しています。全国のNHO病院の経験豊富なスペシャリストたちの直接指導によって、実践的スキルと知識を身に付けられる充実のプログラムを提供しており、全国の参加者たちと交流することも魅力です。今回は2024年8月1日・2日に呉医療センターで行われた「消化器内科セミナー」について紹介。セミナー講師を代表して、加賀谷尚史先生(金沢医療センター)と田丸弓弦先生(呉医療センター)にお話を伺いました。



講師

金沢医療センター
臨床研究部部長・
消化器内科部長

加賀谷 尚史



PROFILE

出身地：北海道
出身大学：金沢大学(1995年卒)
宝物：家族、友人
座右の銘：If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.

呉医療センター
消化器内科

田丸 弓弦



PROFILE

出身地：広島県
出身大学：長崎大学(2008年卒)
宝物：家族、友人
座右の銘：目の前のことから逃げない

『センスとスキルを身につける！ 未来を拓く消化器内科セミナー』 について

加賀谷…消化器内科領域における“良質な医師を育てる研修”は、2016年度に仙台医療センターの鶴飼副院長(当時)、函館病院の加藤院長(当時)を中心に企画開始され、講師はNHO消化器研究グループに参加していた各施設の医師を中心に募集し、2017年3月に第1回目の消化器内科セミナーを開催しました。

消化器内科セミナーの意義は、『センスとスキルを身につける！』というサブタイトルに集約されています。NHOネットワーク研究グループ消化器分野のグループリーダーである九州医療センターの原田光学診療部長(当時)の発案で、「消化器内科医は、手に入れた豊富な知識を活

用し、臨床の場で実際に使えるようにするためには、センスとスキルを身に付けることが重要」という信念から、『センスとスキルを身につける！』と銘打ち、知識やセンスを身に付ける座学と、内視鏡やエコーといったスキルを身に付けるハンズオンを組み合わせた2日間のセミナーとして開講されました。

消化器内科セミナーの特徴と 参加する意義とは

加賀谷…消化器内科セミナーを始めた初期の頃は、座学が一日半、ハンズオンが半日というプログラム構成でしたが、参加された研修医の先生方から、「座学よりは、ハンズオンの方が普段の研修で得られない体験ができる」といった声が多くあり、回を重ねるごとにハンズオン中心のセミナーへとシフトしました。座学が少なくなった分は、事前にe-Learningを受講することによって基本的知識を得てもらい、CT読影、腹部エコー、消化器内視鏡(上部、

下部、胆膵、ポリペクトミーや止血処置など)といったハンズオンを1日半かけて行っています。

第8回開催となる2024年8月1日・2日に行われた消化器内科セミナーでは、1日目は腹部画像診断のグループワークののち、腹部エコー手技の座学、腹部単純写真の読影を行い、2日目は上下部消化管内視鏡、ポリプ切除術、止血術、胆膵治療のハンズオンを行いました。消化器疾患の診断・治療に必要な基本的手技や治療難易度がそれほど高度ではないタスクをセレクトし、参加者のみなさんが“自分の手で治療ができる”という体験を通して、消化器内科の楽しさ、面白さを実感できるプログラムとなっています。

田丸…このセミナーでは、普段、研修医がなかなか経験できない処置も、講師であるスペシャリストたちから、手技のコツやポイントを傍で教えてもらいながら経験することができます。セミナーを通して消化器内科の魅力を知り、また、ハン



特集 良医研修「消化器内科セミナー」in 呉医療センター

ズオンを通して手技の楽しさだけでなく、奥深さも体感していただき、「経験をたくさん積んで手技が上手になりたい」という意欲が生まれてくるようなプログラムと指導を心掛けています。普段の自施設での研修や仕事の場ではどうしても遠慮してしまう場面もあると思いますが、このセミナーでは分からないことを気軽にどんどん質問できるなど、こうした機会だからこそ学べることも多いと思います。

消化器内科の魅力や必要なスキルとは

田丸…消化器内科の領域は、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸といった消化管から肝臓、胆道、膵臓疾患全般と非常に幅広く、さらに、内視鏡検査・治療、エコー検査など手技も多彩であるため、興味のある自分に合った専門領域や治療手技が見つかる診療科です。

加賀谷…消化器内科専門医としては、高度な内視鏡やエコー、CT・MRIなど画像診断を解釈し、高度化する治療、抗がん剤や抗腫瘍治療を適切に行うスキルが必要です。地域医療の先生からの紹介患者や救急では、「腹部症状」で受診される症例がとて多く、その原因は多岐にわたります。ごくありふれた腹部症状に、消化器以外の疾患も交ざっており、それらを的確に鑑別する“総合内科的”なスキルやセンスも必要となります。

また、消化器内科は「知識も必要、手技も必要」であり、かつ「カバーする臓器が多い」領域です。的確な診断によって治療できる領域も多く、また、新しい技術の開発も続いており治療できる領域も増えています。生涯勉強しながら続けることができる、やりがいのある診療科です。

セミナー参加者の声や感想について

加賀谷…「楽しかった」という感想を多くいただいています。また、セ



ミナーではグループワークによって1年目と2年目の先生がコンビを組み、2年目の先生が1年目の先生に指導的役割を担いながら一緒に腹部画像の所見を読むなど、全国のNHO病院の同期や先輩・後輩と一緒に学ぶことができます。そのため、「同世代の先生と交流も深めることができ良かった」という声も多くあります。

田丸…消化器内科セミナーは非常に人気があり、今回は募集人員に対して2倍以上の応募がありました。これまで消化器内科セミナーに参加してくださった先生方から、多くの高評価をいただいていたこれまでの実績があるからこそだと感じています。

NHOで働く(研鑽を積む)魅力とは

加賀谷…NHOには全国140の病院からなるネットワークを活かした、学術面や友好面での交流もあります。一つの病院、一つの医局だけに留まるのではなく、NHOの全国各地の病院や医局の先生たちと交流し、情報交換や議論をすることで新たな知識を得たり、技量を磨くこと



ができます。NHO病院で得られる知識やスキルは他施設よりも幅広く充実しており、そうして得たスキルを患者さんに還元できることは医師としての大きなやりがいにもなるでしょう。

田丸…“良質な医師を育てる研修”のように、NHOの各病院が連携した教育など、自分が所属している病院や医局だけではなく、全国のNHO病院の優れたスペシャリストたちからも直接指導を受けられるのは、他施設にはない大きな魅力だと思います。

医学生や若手医師たちへのメッセージ

田丸…消化器内科は幅広い分野があり、自分で検査、診断した後にそれを直接自分で治療ができるという数少ない診療科です。内科的ア

プローチだけではなく、手技や研究など、自分の興味に合わせて専門性を高めることもできます。消化器内科の楽しさ、やりがい、奥深さなどをセミナーを通してしっかり伝えたいですし、参加者のみなさんがそれを肌で感じていただき、一人でも多くの先生が消化器内科に進んでくれたらとても嬉しく思います。**加賀谷**…過去にこのセミナーで学んだ先生方が、消化器内科に進み、消化器系の学会でお目にかかる場面が何度かあり、とても頼もしく思っています。このセミナーに参加した先生同士が、学会主題でdiscussionしたり、国際学会で活躍している場面が見られることを期待していますし、将来、消化器内科医として一緒に専門性を磨いていく仲間が増えることを楽しみにしています。

IMPRESSION

入職して直ぐに、消化器内科セミナーがあることを上の先生に教えていただき、内視鏡やエコーといった手技に興味があったため、ぜひ参加したいと思いました。セミナーに向けて自院でも内視鏡やエコーに触れましたが、セミナーでは「エコーをなぜこの角度で当てるのか」といったきめ細かな教えや手技のコツを学ぶことができましたし、普段の臨床現場とは異なり、こうした機会だからこそ気兼ねなくたくさん質問することもできました。さらに、全国のNHO病院の同期たちとの交流によって、「自分も頑張らなければ」と大きな刺激を受けるなど、とても濃密で有意義な経験を得ることができました。

参加した先生の感想

三重中央医療センター
初期研修医 1年目
吉田 侑生



PROFILE

出身地：広島県
出身大学：富山大学(2024年卒)
宝物：家族、同期
座右の銘：失敗は成功の基

千葉医療センター
初期研修医 2年目
加藤 彩理紗



PROFILE

出身地：千葉県
出身大学：東邦大学(2023年卒)
宝物：思い出
座右の銘：継続は力なり

私は消化器内科志望ということもあり普段の研修から内視鏡に触れさせてもらっていますが、セミナーのハンズオンでは初期研修ではなかなか経験できない内視鏡的ポリープ切除術(ポリペクトミー)における止血処置を学ぶなど、とても貴重な経験ができました。このセミナーは自分で手を動かすことができる時間が多く、また講師の先生方も充実しており、きめ細かな指導と的確なアドバイスによって手技ができるようになる楽しさも知ることができました。また、他病院の先生方とのグループワークによって、一つの胸部画像、一つの症例についてさまざまな意見、考え方を聞いたことも非常に勉強になりました。